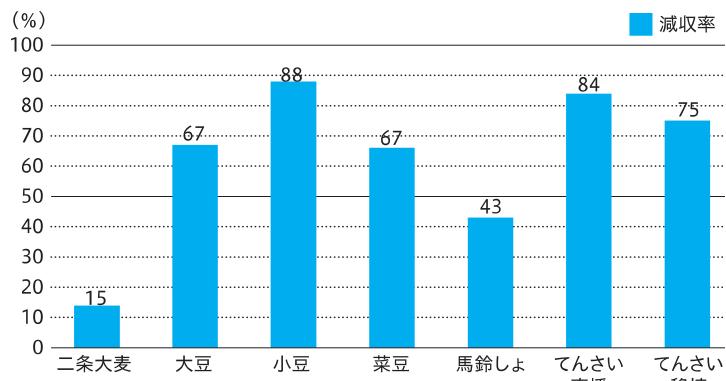


## 農薬の上手な使い方②～除草剤編～

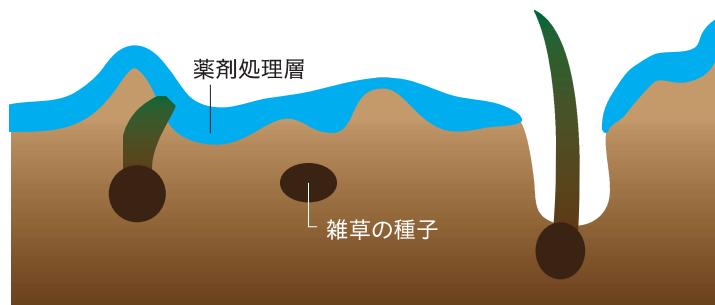
ホクレン | 肥料農薬部 | 技術普及課

### POINT!

**雑草の種類と散布適期を把握して  
効果的に雑草防除を実施しましょう！**



[図 1] 雜草害による減収事例（小川ら、1979）



[図 2] 薬剤処理層の様子（イメージ）



乾燥してサラサラしている

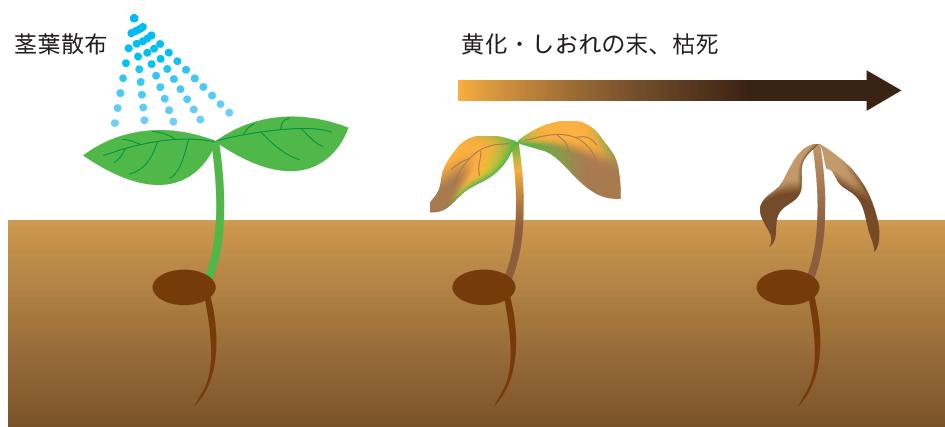


べたつくことなく握るとだんご状になる  
散布に適した土壤条件

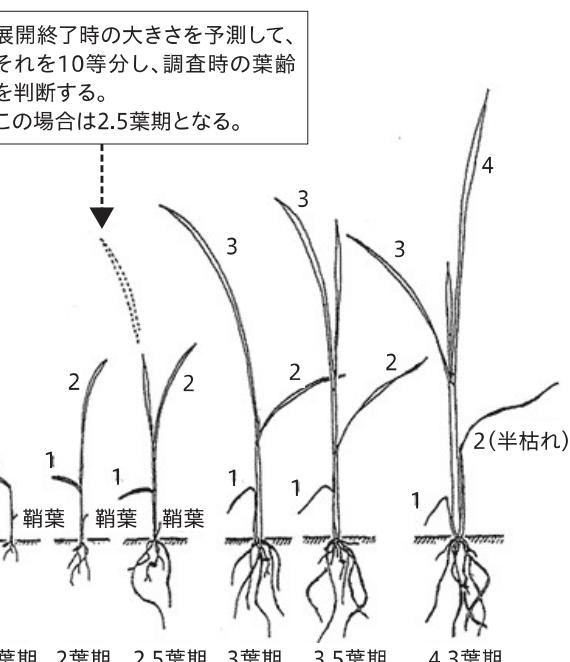


手にべたつく

[図 3] 土壌水分による土壌処理剤の散布適期（イメージ）



[図4] 茎葉処理剤（イメージ図）



[図5] ノビエの葉齢  
(公益財団法人日本植物調節剤研究協会資料より(一部加筆))

## 2. 土壤処理剤について

土壤処理剤は「耕耘後、雑草の発生前、発生直後に土壤表面に薬剤を処理、処理層を形成させることで雑草の生育を防ぐ除草剤」です。これは、土壤水分の力を借りて処理層を形成することがポイントになります。しっかりと効かせるには碎土や整地をしてい

ねいに行い、均平になるよう心掛けましょう（図2）。土壤が乾燥していると効果が不安定になるので、適度に土壤水分がある時に散布しましょう（図3）。

## 4. 水稲除草剤について

### 3. 茎葉処理剤について

茎葉処理剤は「生育中の雑草に直接散布する除草剤」です（図4）。散布後、数時間以内に変色やしおれ等の症状が現れる速効的なものや、効果の発現まで1週間以上かかる遅効的なものもあります。

除草剤を使用する際の注意点ですが、降雨があると薬剤成分が流失するなどして効果の低下や薬害を起こすことがあるので、散布後1日程度降雨のない好天の日を選んで散布するようにしましょう。

湛水条件下で使用される水稻除草剂は、散布後の処理層を破壊しないための水管理が非常に重要です。早期に減水したり、水深が浅い場合、効果不良や薬害を生じる可能性がありますので、散布後4～5日間は水管理に十分な配慮が必要です。また、処理した除草剤の効果は雑草の生育段階（葉齢）に大きく影響を受けます。そのため、雑草の葉齢を意識した散布を行いましょう。ノビエの場合、葉齢は鞘葉の次にすぐ抽出する本葉から数え、2葉期以降は展開終了時の大きさを予測して判断します（図5）。